

---

今日のみ言葉 201 2011. 3. 7

「神の言葉がとどまり続け」

(Iヨハネ2の13より)

神の言葉があなた方のうちにとどまり続け、  
あなた方は、悪しき者に勝利した。

God's word remains in you, and you have overcome the Evil One.

---

悪の力、闇の力に勝利したい、そして、よき力を自分のうちに取り入れたい、これは誰もが願うところである。だれもだまされたり、憎しみや攻撃を受けて精神的に追いつめられたり苦しんだりしたと思わない。それは言い換えると、悪によって打ち負かされたくないということである。

そのために、ここでは簡潔な言葉でその勝利への道が書かれている。それは私たちの内に、神の言葉をとどまらせることである。

神とは、永遠の存在であり、目に見える天地のすべてを創造し、かつ現在もそれを支えておられ、目に見えない心の世界、霊的な世界も創造し、かつそれらすべてを愛と正義、そして真実をもって今も御支配なさっているお方である。

そのようなお方の言葉には、人間とは本質的に異なる力がある。力そのものが神とその言葉には宿っている。それゆえに私たちがその神の言葉をかたく持ち続けるときには、その力によってこの世の闇の力に勝利できる。

主が最後の夕食のときに、長い教えを話されたがその最後に、「あなた方はこの世では苦しみがある。しかし、勇気を出せ。私は世に勝利している。」と言われた。

神の言葉とは、聖書に記されている言葉、さらに信じる者に個人的に語りかけて下さる生けるキリストの言葉、さらにはキリストご自身をもいう。そうした意味での神の言葉を心のうちに保持しつづける限り私たちは必ず勝利する。

主イエスは、闇の力が襲い、悪しき人々に捕らわれて処刑までされたが、そのようなことになっても、たしかに勝利されたゆえに、その存在は不滅のものとなり、以後 2000 年にわたって無数の人を滅びの淵から救ってきたのである。すでに旧約聖書の詩集のなかにも、「神の言葉を昼も夜も心の内にとどめ、深く思いをいたすなら、その人は流れのほとりに植えられた木だ。絶えず実を結んでいく。」（詩篇第 1 篇）と言われているとおりである。



### 雪の中の梅

2011. 2. 14 撮影 (徳島県小松島市)

今年、2月14日に当地としては最近ながく見られなかった大雪となった日の撮影です。わが家は、高さ200メートルほどの山を少し登ったところですが、この山の頂では15センチほどの積雪となっていました。この写真のように、雪のなかの梅は、聖書にも記されているように、雪の白さが、私たちの罪清められた心の世界を指し示すゆえに、いっそう私たちの心に残るものです。

梅は、このように一年で最も寒さ厳しいときにも次々と花を咲かせるゆえに、私たちにその花のやさしさとともに、厳しさのなかに咲くことの力を感じさせてくれます。また、その香りは多くの人にとってはなじみがないことと思いますが、花に近づくとよき香りがあり、厳しさのなかにうるおいをたたえている花です。

また、ほかに花もほとんどなく、木の実のないころなので、小鳥、とくにメジロがしばしばやってきて花の蜜をすっています。

適切な剪定があれば、樹木としての姿も古木となるほど風格も生まれます。また、その実はとくに梅干しとしておにぎりなどにはなくてはならないものですが、その実にはほかのいかなる果実類ものにも増して、クエン酸の含有

量が多く、それは体内に取り入れられるとすぐにエネルギー源となるゆえ、疲れたとき、病気のときなどにも愛好されるものとなっています。

このように、梅は、花の美しさ、樹木のすがた、香りなどが好ましく、さらに果実も食用や薬用などとして一般の日本人にも愛好されるという幅広い役目をになっています。こうした多様性は、創造主たる神が与えたものであるゆえ、そのもとになった神ご自身が、こうしたあらゆるよきものをたたえた存在であることを思わせてくれるのです。

（写真、  
文： T. YOSHIMURA ）

---